

開催日時：平成17年7月29日（金） 15：00～18：00

場 所：ドーンセンター 5階 第会議室2

出席委員：池淵委員長、井野瀬委員、高橋委員、久委員、弘本委員、堀野委員、増田委員、山下委員

## 1. 議 題

- (1) 前回議事概要確認
- (2) 一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について
- (3) 二級河川芦田川水系河川整備基本方針について

## 2. 概 要

- ・ 一級河川淀川水系神崎川ブロック及河川整備計画 治水手法の選定について

(まとめ)

一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画における治水手法の選定について説明した。安威川・神崎川の治水手法としては、基本的にダム案が妥当と考えられるが、今後は、計画高水流量の確定や利水計画を踏まえたダムの規模、環境保全対策などの資料を提示し、その妥当性の審議を更に進めることとなった。委員会より以下のような意見、指摘事項があった。

前回の指摘事項に対する説明（資料1-2、3.その他）

(委 員) この流域の現在の下水道整備状況は？近年の内水浸水被害の状況は？

(事務局) 大阪府南部に比べると下水道整備が進んでいる。また、平成11年6月に上流の山間部で大雨が降り、神崎川・安威川の水位が上昇し、摂津市・吹田市などの内水区域で浸水被害（床上浸水約100戸、床下浸水約60戸）があった。

(委 員) 流域対応は河川のピーク流量と比較すると効果があまりないように見えるが、下水のポンプ容量と比較してみると効果が見えてこないか？

(事務局) 内水区域の局地的な浸水解消には効果的であると考えられるので、資料を整理したい。

(委 員) 今以上に森林を増やせ、とは言わないが、流域対応の観点から現状維持できるような部局間連携ができないか？

(事務局) 法や行政指導には限界があるのが現状。ただ、庁内の関係部局との情報交換はもとより、有用と考えられる施策は、河川整備計画の中に盛り込みたい。また、この安威川上流域の車作地区では、大阪みどりのトラスト協会が町に住むボランティアの方々とともに車作地区の森林保全活動に取り組んでいる。現在、地元の方々も加わり、下草刈りや間伐などの月2回の保全活動を行っている。

治水手法の選定

(委 員) B/Cについては、どの案も1を超えているのかを確認したい。

(事務局) 平成15年度の建設事業評価委員会でダム事業のB/Cを算出したもので5.6となっていることから、いずれも1を超えている。

(委員) 遊水地案はなぜこんなに事業費がかかるのか？

(事務局) 費用比較での用地費については、一部宅地であっても、すべて農地単価を採用している。それでも地価が高く、面積も広大なため用地費用の占める割合が大きい。また、借地方式としても大阪府の規定にしたがい借地料を算出し検討すると、20年弱で買収と同等の費用がかかる。

(委員) 100年に1度の降雨の定義や、施設規模を決定する洪水をどうするという議論はすべてが確定したわけではなく、仮に設定した施設規模により算出した費用ということか？

(委員) これまでの流れは100年に1度の計画降雨群を降らせて基本高水群を設定し、4つの治水手法の比較案ごとに複数の基準点をクリアする施設の概略規模を仮定し議論してきた。

(事務局) 今後、計画とする高水流量が設定されて初めて施設の規模は決定する。したがってそれぞれの施設規模が確定したもので比較している訳ではない。

(委員) 河道改修案での、下流の神崎川への負荷が大きいという点だけでなく、時間的にもかかり、護岸の補強にも膨大な費用がかかるということも、もう少し明らかに示したほうがよいのではないか。その方が、貯めものが必要であることが理解しやすい。

(事務局) 河道改修案では、神崎川部分の河床掘削により現在の護岸の安定が保てないため、補強が必要です。また、河床掘削のみでも、必要な費用は概算で約300億円です。

(委員) 山地に影響があるのがダムで、街に影響があるのが遊水地案ということになるが、その影響を軽減するためにかかるコスト増が、莫大なものにならないと理解して良いのか？ダムは、自然環境の保全対策に必要な費用であり、遊水地は工事中の影響に対する費用にはねかえってくるのでは？

(事務局) 現在のところ、安威川ダム自然環境保全対策検討委員会でダムによる影響の緩和方策の基本的な考え方を取りまとめている。ただ、その対策に必要な費用については、今後の具体的な方策の検討により確定する。また、市街地での工事に伴う家屋等への影響の防止に必要な仮設工事費や、やむを得ず生じた工事損害補償が生じるケースが多い。今の段階の経済比較でダムが有利なこともあり、この費用の積み上げはしていない。

(委員) 社会環境と自然環境という違うベクトルのものを評価して妥当性を判断するのは難しい。ただ、遊水地案は非常に時間がかかってしまうことが一番の問題点である。また、現実に市街地においては、合意形成がとれ用地買収ができるのかということが、非常に危惧される。ダムを選ばざるを得ないと思う。

(委員) 行政の管理者責任の観点からは、水害のリスクを背負った期間が長いということは、重要な問題だと思う。

(委員) ダムが経済的に有利なことは理解したが、必要なのはダムのデメリットをなるべく小さくすることを考えなくてはいけない。治水は必要だが、利水は見直してダム湖がどこまで小さくできるのか。そのとき環境負荷をどれだけ軽減できるのかが重要である。

(委員) ダムの環境の影響について定性的に記されているが、どういう保全方法があるのか、その辺は、次のステージに進め河川整備委員会としても総合的に審議する必要がある。ただ、その結果によっては、少し戻って再度、他の案も含めて検討するという事もあると思う。どういう影響軽減化の仕組みがあるのか。また、ダムの利水計画がどうなるのか、それらを含めて今後審議をしないとダムの大きさ、つくり方が定まらない。

(委員) 基本的なことになるが、同程度の洪水カット量でダムで貯留すると1,373万 $\text{m}^3$ で、遊水地で貯留すると861万 $\text{m}^3$ ということだが、貯めものの位置と容量の関係について教えてほしい。

(委員) なぜ遊水地が代替比較の場に出てくるのか理解できない。用地確保を農地と山地で比較すると上流側の山地で、貯めた方が費用的に良いに決まっている。

(委員) 50mm対策が完成していれば、1/100とまでは行かないまでも、相当規模の安全度が確保されているのではないか？

(事務局) 50mm対策という表現が誤解を招いていると思う。時間雨量50mmという雨は、実績降雨として評価しているものではなく、整備の途中段階での目標整備水準を示すもので、大阪府下では地域によって幅があり、概ね1/5から1/10ぐらいの確率規模の降雨となる。この50mm対策という表現や安威川の現在の整備水準について整理したい。

(委員) 計画規模として1/100となる日雨量247mmを目標とするということは、既に委員会として合意されており、あとそれがどういう雨かということを最終的に委員会として確定する必要がある。

(委員) 治水手法については、基本的にダム案でまず検討する。それには、利水計画やダム上下流における環境に対しての影響とその保全対策が妥当かどうか、ダム案を評価する上で重要な項目となる。河川管理者からそのあたりの材料が提示できるのか？

(事務局) 大阪府としての水源計画については、8月中旬に方針が確定する。また、環境面についても安威川ダム自然環境保全対策委員会で、8月上旬にマスタープランが策定されることから、9月には審議に必要な資料の提示ができるものと考えている。

・二級河川芦田川水系河川整備基本方針について

(まとめ)

二級河川芦田川水系河川整備基本方針(素案)について、事前に各委員から出された意見、指摘事項の報告を行なった。今回は、これらの意見、指摘事項を踏まえ基本方針を再整理し、審議することとなった。